



令和6年7月1日
那珂こども園



～ 怪我から得られる学びとは？ ～



子どもの遊びに、小さな危険や怪我はつきもの。「怪我也経験のうち」と頭で分かっている、ついつい怪我から遠ざけてあげたくなるものです。ですが、怪我をするということは、子どもにとって大きな学びが隠されている事を忘れてはなりません。怪我から得られる学びには以下の4つがあります。

① 自己コントロール力

怪我をするということは、チャレンジした証。それと同時に、『このくらいすると、このような怪我をしてしまう』という学びにもなります。子どもは、自分をコントロールしていく術を怪我の経験から学ぶのです。

できるかな？

やってみよう！



② 挑戦する気持ち

怪我の経験は、どんどんチャレンジしていくための力になります。子どもは、自分でできる事が増えることに大きな喜びを感じ、さらにできることを増やそうと挑戦するのが大好きです。

ちょっとこわいけど・・・

できるようになったよ！



③ エ夫する力

怪我をして、そこで終わってしまっただけでは、ただ痛い思いをするだけです。しかし、今後同じような怪我をしない為にはどうしたらいいか、考える力が身につくのも怪我の学びの一つ。子どもが怪我をしてしまった時には、「次はどうしたら怪我しないで遊べるかな？」と、子どもに考えさせるような声掛けをしてあげましょう。

次は、気をつけよう！



④ 人を思いやる気持ち

危険を排除した環境で、怪我の痛みや悔しさを知らないまま大人になってしまっただけでは、他人の痛みにも共感することができません。痛みを知っている子どもは、驚くほど相手の気持ちに寄り添える子どもに育ちます。自分が怪我をした経験も、人を思いやる気持ちの土台として心に残るでしょう。

いたいいたいのとんでいけ～！



大丈夫？



これらの力は、大人になってからでは身に付けにくい、これから子ども達が生きていくためのとても大切な力となります。怪我から得られる学びは多いですが、だからといってどんな怪我でもしたほうがいいというわけではありません。子どもの安全を確保するのは大人の役目。学びのない怪我（大きすぎる怪我・大人の不注意による怪我）は、大人が責任をもって守っていかねばなりません。



- 大きすぎる怪我・・・頭の怪我、腹部や背中を強く打ちつける怪我は、怪我による学びよりも、痛み・苦しみの方が大きく印象付いてしまいます。
- 大人の不注意による怪我・・・出しっぱなしにしていた包丁で子どもが手を切ったというような大人の不注意による怪我も子どもにとっては学びのない怪我になってしまいます。

子どもは、何度も挑戦と失敗を繰り返すと、自分で自分の安全を守りながら遊べるようになります。自分の安全を自分で守りながら遊べるようになると、大人の口出しがなくとも、自分の力量に合わせてどんどん挑戦して自らの世界を広げていくのです。

～Awaji Kids Garden ホームページより一部参照～

那珂こども園でも日々子ども達の遊ぶ姿を近くで見守っていますが、先回りして子どもの周りから危険を全て排除するのではなく、一回りも二回りも成長するチャンスとして、子どもの挑戦を後押ししてあげたいと思っています。

